

第16回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会 議事録

- ・日時：平成27年3月26日（木）14:00～14:50
- ・場所：西尾市役所 22会議室
- ・出席：（自治体）西尾市 小島副市長
蒲郡市 鈴木副市長
愛知県地域振興部交通対策課 渡邊課長
（オブザーバー）中部運輸局鉄道部監理課 河合課長
名古屋鉄道株式会社 鈴木取締役

【発言要旨】

（1）名古屋鉄道（株）との協議の方向性について

（事務局：西尾市地域支援協働課）

- 現在までの名鉄に対する支援の考え方としては、平成22年3月29日に開催の第7回対策協議会にて合意した「鉄道を道路と同様の社会基盤として捉え、維持存続を図るため鉄道運行にかかる費用の一部を支援する」という内容のものである。
- 前回の対策協議会にて、「平成27年3月までに、2市が路線存続を基本とした運行主体・方式などの方針を示す」という合意がなされ、対策協議会の下部組織である幹事会及びワーキング部会にて協議を行ってきた。
- 下部組織で協議した結果、「①引き続き名鉄が保有・運行する方式で維持存続を図ることとし、平成28年度以降の運行に対しても2市は支援を継続する。②2市は、支援金額と期間について、平成27年10月までに結論が得られるよう、名鉄と具体的な協議を進める。」こととする。

（2）その他

（蒲郡市）

- 3月31日をもって、蒲郡市副市長の職を退任する。
- 蒲郡市の西部を走っている名鉄は、JRとともに基幹交通であり、公共交通の要である。鉄道は道路と同様に社会基盤であると考えているため、しっかりと支援を行っていく。
- 主な利用者である高校生が、進路を考える際に不安にならないよう、早く結論を出したい。
- 形原小学校の授業において、西尾・蒲郡線の存続問題を取り上げていただいている中で、将来を心配しているという話も聞いている。何とか安心してもらえよう、今後の協議の場において議論していきたい。

（愛知県）

- 愛知県としても、重要な課題と認識しており、平成23年度から支援させていただいている。
- 心配をしていた利用者については、西尾市および蒲郡市と地域ぐるみで利用促進に取り組んでいただき、毎年着実に増加しているのは本当にありがたいことである。
- 名鉄においても、7億円以上の赤字路線であり、両市から2億5千万円の負担金はあるが、およそ5億円という負担を自社で抱えながらも、地域貢献との思いで運行していただいております、感謝申し上げます。
- 公共交通を維持することの大変さを実感している。平成27年度に「（仮称）愛知公共交通ビ

ジョン」を策定する。公共交通を地域住民の生活の足としてだけでなく、域外から多くの方が訪れる手段としても利用してもらえるよう、鉄道やバスの乗継利便性をいかに高めるか等を中心に議論していく。観光需要が交通需要を生み、交通需要が観光需要を生むという認識のもと、ビジョンを策定し施策を展開していく。

- 高齢の方にとっては外出するという事が、健やかな老後のために非常に重要である。福祉施策として外出支援を積極的に行っているが、公共交通施策においても高齢者や障害者の外出支援という視点があってもいいのではないか。もしかすると公共交通を維持することが、医療費の削減につながっているのかもしれない。そのような意味でも、西尾・蒲郡線をしっかりと確保維持してもらいたい。

(名鉄)

- 何とか沿線の各所から西尾・蒲郡線にお客様が来ていただけるよう、「西尾キャンペーン」を実施したり、西浦や蒲郡、吉良等を対象とした旅行商品を発売している。また、従来からの沿線ハイキングに加えて、昨年からは開始している吉良吉田駅から三河鳥羽駅までの常設のハイキングコース等にも取り組んでいる。一人でも多くの方に利用していただけるよう、今後も利用促進に取り組んでいきたい。
- 議題のとおり、輸送人員については、特殊要因を除いても6年連続の増加であるが、輸送密度については、お客様の乗車距離が短くなっているため、引き続き低水準で推移している。収支状況についても、改善はしているものの、支出の削減によるものであり、依然として7億円以上という大幅な赤字を抱えており、経営的にも厳しい状況である。
- 先ほど決議された平成28年度以降の方向性についても、しっかりと受け止めさせていただき、平成27年10月までに結論が出せるよう、両市の皆様と協議を進めていきたい。

(中部運輸局)

- 西尾・蒲郡線については、地域住民の方が必要だと感じていただき、利用も増えているということで、本当にありがたいことであり、皆様の努力の賜物である。
- 輸送密度については、個人の需要の話であり、たまたま足が短いという利用実態になっている。あくまで目安であるため、国鉄再建時の数字と比べるとは少し厳しいのではないかと。
- 利用者が伸びている中で、これからは地元の方だけでなく、国内外から観光客を取り入れられるような観光資源にも恵まれており、まだ伸びる要素が十分にあると考えている。
- 国土交通省としては、地域公共交通活性化再生法の改正等もあり、両市には地域公共交通網形成計画の策定をお願いしたい。交通網の基礎となるのが西尾・蒲郡線であるため、これからも盛り立てていただき、立派な形成計画を策定していただきたい。

(西尾市)

- 市長がかねてより、西尾・蒲郡線を名鉄のドル箱路線にすると話しており、西尾・蒲郡線に対する市長の強い思い入れの表れである。通学の学生が不安を抱かないよう、何としても存続していかなければならない。
- 国内外からの観光客を呼び込むという点については、三町との合併により豊富な観光資源に恵まれており、非常に高いポテンシャルを持った地域である。今後、観光資源をさらに磨きあげ、情報発信を行いながら、観光と一体となった取り組みにより鉄道の利用を促進し、「乗って、残す」という方針を貫いていきたい。

(以上)